

畜産みやぎ

発行所
仙台市青葉区上杉一丁目16番3号JAビル別館3F
宮城県畜産協会
電話 022-723-0733

編集発行人
大堀 哲

印刷所
(株)東北プリント



新種雄牛(左:奥北茂、右:糸昭)

もくじ

C O N T E N T S

『畜産みやぎ』200号のあゆみ	2	新人紹介	6
平成15年度畜産施策の概要と新規事業の紹介	4	畜試便り - 新しい基幹雄牛について -	7
衛生便り - 家畜衛生研修会の症例から -	5	精液の価格が改正されました	8
実践大学校OBの抱負 - 私の目標 -	6	人の動き	9

『畜産みやぎ』200号の歩み

(社)宮城県畜産協会

「畜産みやぎ」は、皆様のご愛読を頂き今回の発行で記念すべき第200号を迎えました。

畜産専門の広報誌として昭和45年1月20日創刊以来、実に32年有余の長い歳月とともに今日まで継続発行できましたことは、これ偏に関係各位のご支援の賜ものと心から感謝を申し上げます。ここに発刊記念として、これまで編集しに携わってきた一人として歴史を紐解きながら変遷を辿ってみたいと思います。

本誌の遷り変わりから紹介します。写真を見てのとおり、創刊号は縦書きの右開きでしたが、第3号から横書きの左開きへと変更しているのがおわかりと思います。また表紙写真で飾られるようになったのは第9号(金成町菅牧場の入牧風景)からで、このスタイルが基本となって現在に至っております。

また、「畜産みやぎ」の題字をよく見ますと、当時の字体との相違がお分かりでしょうか。そして事務用品の規格変更に乗じ、本誌も平成8年5月にA4サイズへと衣替えをしました。

「畜産みやぎ」は時節の話題や特集を迅速かつ的確に読者にお届けする使命を持っておりますが、一方ではオアシスの場を配慮しながら以下の定番コーナーを設けています。

先ずは「畜試だより」ですが、第2号から第11号まで試験研究の歩みとして掲載されたのがこのコーナーの前身です。一時は中断したものの昭和50

年7月の第34号から畜産試験場だよりとして再掲し、58号からは現在の名称で通算29年間ロングセラーとして定着しています。

「衛生便り」は昭和58年5月の第81号から仙台家畜保健衛生所の病性鑑定課にて各種疾病の紹介を行ったのが始まりで、平成3年7月の第130号から約20年間に亘り現在に至っています。平成2年9月号では、昨今の畜産を揺るがしたBSE(牛海綿状脳症)が当時イギリスで大量発生したのを期に「エイズにつぐ新ベスト」と形容され「早期解明が関係者から望まれている」と紹介されております。その当時から対策が講じられていればと、今更ながら何とも複雑な思いがします。

「実践大学校生の抱負」は、平成4年7月に県内で活躍する卒業生からの抱負や現況について紹介していましたが、近年では在校生をも対象に、今日まで延べ55名の方々を紹介してきました。フレッシュファーマーとして益々のご活躍を期待します。

「新人紹介」は、平成6年5月より県・関係団体の入社3年以内の職員を対象に、これまで30名の方を顔写真入りで紹介し、自己PRの場として慕われております。ちょっとしたタレント気分浸った





方もおられたのではないのでしょうか。

かつては「人物紹介」なるコーナーがありました。当時の現職の方々のエピソードなど好評を博しておりましたが、徐々に紹介者は退職前の「肩たたきコーナー」とも噂されるようになりました。特に終盤には渋々承諾を頂き、57年3月まで19人の紹介で廃版となったことが印象的でした。

また、「随想」も同時期から掲載し、平成6年4月の第146号まで、延べ90人の方々に逸話や提言などそれぞれの想いを『筆』に託されました。独特の味わい深い内容を醸し出し、読者の興味を注ぐ人気コーナーでした。復活を期待しつつも、多忙極まる近年においては依頼側としても躊躇してしまいます。

最後に、本紙は創刊以来、隔月1回(奇数月)年6回発行するにあたり、県並びに関係団体10名程度で構成する「畜産みやぎ」編集委員会を前期・後

期に各1回づつの開催をもって掲載内容を協議しております。

県内はもとより県外にも広く配布致しておりますが、2,000部という限られた発行部数では末端まで十分行き届かず、何かとご不自由をお掛けすること多々ございます。しかし平成11年5月の第177号から本会ホームページにてご覧いただけますので是非アクセスしてみてください。(アドレスは本紙表紙に掲載)

皆様方からお寄せ頂いた貴重なご意見ご要望を参考に「親しみのある」「読みやすい」広報誌を目指し事務局一丸となって努力いたす所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。編集者の一人として200号記念の寄稿といたします。

(経営支援課長 山田文彦)

平成15年度畜産施策の概要と新規事業の紹介

宮城県産業経済部畜産課

基本方針

本県の畜産は、食生活の多様化等を背景とした畜産物の需要に支えられ、農業産出額の3割を占めるまでに成長し畜産主産県としての位置を確立しています。

また、畜産物の生産活動を通じた環境の保全という本来的な役割に加え、体験や交流を通じた豊かな人間性の育成といった役割も担いながら、農業の基幹部門として重要な役割を果たしています。

しかしながら、一昨年9月の牛海綿状脳症(BSE)の発生、韓国産輸入生カキの混入問題、無登録農薬の販売・使用問題などにより、「食」に対する消費者の関心が一層高まる中で、県民に信頼される畜産物の生産体制を築くことが急務となっています。さらには、農業従事者の高齢化や担い手不足による生産基盤の弱体化、国際化の進展による低コスト化への対応、環境への負荷軽減や家畜衛生対策の強化も求められています。

このため、県では、平成12年7月に農業・農村振興の目標を掲げた「みやぎ食と農の県民条例」を制定、平成13年10月には条例に定めた目標を達成するための基本的な道筋を示した基本計画を策定したところです。

以上のことを踏まえ、平成15年度においては、「宮城県酪農及び肉用牛生産近代化計画」等の基本計画の目標を実現するための施策に取り組んでまいります。具体的には、牛海綿状脳症対策特別措置法に定められた24ヶ月齢以上の死亡牛の全頭検査、個体識別のための耳標装着、BSEの発生により経済的に影響を受けた畜産農家に対する支援対策を継続します。また、「家畜排せつ物の利用の促進を図るための宮城県計画」を推進するため、農家の実態に応じた家畜排せつ物処理施設の整備を進めるとともに、飼料自給率の向上を図るための飼料増産推進運動を展開します。さらに、肉質と肉量を兼備した肉用牛生産体制を確立するとともに、ゆとりある効率的な酪農経営を目指した牛群の改良やヘルパー制度の充実を図ります。あわせて、系統豚「しもふりレッド」の供給体制を確立するとともに、新たなランドレース種の系統造成を開始します。

なお、これら施策の展開に当たっては、「新世紀足腰の強い宮城の畜産」をスローガンに、次の六項目を重点施策に掲げ、国、市町村、畜産関係団体との連携を一層強化し、幅広い視点から総合的な施策を展開してまいります。

- 1 畜産物の安心・安全性の確保と生産支援
- 2 快適な畜産を支える生産環境の整備
- 3 21世紀みやぎの肉用牛生産の振興
- 4 先進的な養豚経営の振興
- 5 ゆとりある生産性の高い酪農経営の振興
- 6 新たな畜産技術の開発と活用

平成15年度畜産課当初予算一覧表

科目・事業名	本年度予算額(千円)
畜産総務費	682,044
畜産振興費	2,336,826
1 畜産改良増殖事業費	60,064
2 畜産改良対策事業費	1,932
3 畜産高度生産技術実用化促進事業費	11,109
4 畜産流通対策事業費	86,332
5 地域畜産振興事業費	55,885
6 畜産環境総合整備事業費	726,567
7 みやぎの快適畜産総合対策事業費	183,438
8 畜産団体等育成強化事業費	411,334
9 公共育成牧場対策費	112,582
10 草地開発整備事業費	449,667
11 自給飼料生産対策事業費	46,064
12 流通飼料対策事業費	2,472
13 学校給食用牛乳供給事業費	2,551
14 生乳流通改善対策事業費	2,755
15 酪農経営体質強化対策事業費	611
16 畜産振興総合対策推進事業費	588
17 養豚振興総合対策事業費	2,210
18 21世紀みやぎの牛づくり活性化事業費	180,665
家畜保健衛生費	261,092
1 家畜伝染病予防事業費	60,147
2 家畜保健衛生費	157,838
3 家畜衛生事業費	43,107
合計	3,279,962



平成15年度の主な新規事業

1 死亡牛適正処理施設整備事業

牛海綿状脳症対策特別措置法に基づく24ヶ月齢以上の死亡牛全頭検査の開始に伴い、円滑な死亡牛処理を推進するため、レンダリング施設における死亡牛専用ラインの施設整備に対する助成を行う。

(1) 事業主体 東北化製事業協同組合(岩手県江刺市)

(2) 事業年度 平成15年度

(3) 15年度予算額 126,045千円

(4) 事業内容

本県において発生する年間約4,000頭の死亡牛のレンダリング処理を円滑に行うため、東北化製事業協同組合に対し施設整備費用の1/4を助成する。

2 飼料安全性モニタリング事業

県内で製造あるいは流通する飼料の安全性を確保し、農家段階における適正な飼料給与の推進を図る。

(1) 事業主体 宮城県

(2) 事業年度 平成15年度～平成19年度

(3) 15年度予算額 1,240千円

(4) 事業内容

飼料安全講習会等の開催

農家段階での給与飼料の適正化指導

牛用飼料の製造、流通、使用段階におけるモニタリング検査の実施

3 新系統豚造成事業

消費者が求める安全で安心な豚肉を安定的に供給するため、「ミヤギノ」に代わる新たなランドレース種の系統造成を開始し、「しもふりレッド」との交配による銘柄豚「宮城野豚(ミヤギノポーク)」の生産を推進する。

(1) 事業主体 宮城県

(2) 事業年度 平成15年度～平成20年度

(3) 15年度予算額 10,000千円

(4) 事業内容

選抜形質：産子数、3週齢子豚-腹重量、抗病形質

改良形質：1日平均増体重、背脂肪厚、ロース断面積、産子数、3週齢子豚-腹重量、慢性病に対する抗病形質

選抜方法：アニマルモデルBLUP法

集団規模：雄15頭、雌40頭

選抜世代：5世代

(畜産振興班 中條 満)

<衛生便り>

家畜衛生研修会の症例から

仙台家畜保健衛生所

全国の病性鑑定担当者が各部門(病理、細菌、ウイルス、生化学)ごとに年1回研修を行っています。今回は私の研修(病理部門)から症例を紹介します。

<症例1>

4歳の搾乳牛が軟便、その後起立不能、黒色便が見られ治療しましたが死亡。その農家では同様な症状で3頭死亡しました。検査では細菌性やウイルス性の病気は疑えず、聞き取り調査で大根を飼料として与えていたことが特徴的でした。大根自体は20年前から少量与えていましたが、今年は1日40～50kg給与。検査の結果、大根中毒と診断されました。大根にはイソチアシネート(辛みの成分、人とは感受性が違います)があり、この成分により溶血性貧血を起こしたものでした。畑作農家から好意で多量に頂いたものが仇となった症例でした。

<症例2>

豚の症例ですが、抗生物質を筋肉注射したところ、その日から翌朝にかけて、注射部位から出血を伴い死亡する豚が多数見られ、死亡した豚は、小判状の紫斑が肩や下あごに見られました。検査の結果、殺鼠剤による中毒死と診断されましたが、豚舎内に殺鼠剤は見あたらなく、その後、数日前に飼料をタンクに充填した時に混入したことが解りました。タンクの近くに置かれていた殺鼠剤を、飼料添加剤と間違い混入したことが原因でした。殺鼠剤の保管状況と作業者の善意が偶然的に引き起こした症例と思われます。他に豚の届かない高さに殺鼠剤を設置したと飼養者が思っていたら、実は豚が後肢のみで立ち上がると鼻が届く位置だったという事例もあります。このような事例は滅多に起こらないと思いますが、飼養管理の慣れや油断が原因の1つと思われます。今まで大丈夫だからではなく、時々には飼養管理の再点検を。中毒様疾病を疑う場合は獣医師又は最寄りの家畜保健衛生所や畜産振興部まで連絡して下さい。

(病性鑑定班 高橋幸治)

実践大学校OBの抱負

「私の目標」

森 康貴



私は、今年の三月まで宮城県農業実践大学校に在学し、二年間寮生活をしながら畜産の勉強をしてきました。そして、この寮生活の中で、同じ農業を志す仲間もできました。二年間一緒に生活し、一緒に遊び、一緒に

学んできた仲間は、私にとってかけがえのないものになりました。そしてこれからは、情報を交換しあえる友達として、また技術を高めあえるライバルとして共に成長していきたいと思えます。

しかし、早いもので、その学生生活も三月で卒業です。卒業してからは、父と一緒に酪農家としての道を進もうと思っています。しかし、その道は多くの困難が待っていると思えます。なぜなら、大学校を卒業したばかりの私には、畜産に関する知識や技術がまだ乏しく、即戦力としては力不足だからです。そのためこれから就農する上で、今以上の知識、技術の向上が必要になります。だから、就農時には仕事だけでなく、いろいろな文献を読んだり、近隣の農家の人や獣医さんなどから専門的な事を聞いたりして、自分にプラスになるように、色々なことに取り組んでいきたいと思えます。

最後に、私の目標を書きたいと思えます。私の目標は、父を超える酪農家になることです。今、私の家の酪農を営んでいる父が、私にとっての目標であり、超えるべき壁なのです。しかし、それが私の最終目標ではありません。私の最終的な目標は、ズバリ！日本一の酪農家になることなのです。これを見た皆さんは、それは無理だということかもしれませんが、こんな私を広い心で応援していただきたいと思っています。これから色々な場面でお会いしたり、お世話になる事があると思えます。その時には、酪農家のタマゴである私に知識、技術の指導をお願いします。こんな私ですが、よろしくお願いします。

新人紹介

(社)宮城県畜産協会

加茂 俊哉



はじめまして。宮城県畜産協会価格安定課に勤務しております加茂と申します。様々な縁があり、昨年7月から奉職させて頂いております。

出身は仙台市で畜産農家を見たことも一度もありませんでしたし、また、大学院での専攻も政治哲学、特にヘーゲルの主人と奴隷の弁証法が研究テーマでしたから、文字通りゼロからのスタートとなりました。毎日毎日が全く新しいことの連続で、コピーのとり方からFAXの送り方、電話の対応、その他諸々の雑用全般に至るまで、手取り足取りご指導くださった方々には本当に頭の下がる思いです。

今現在はそれらと平行して、個体登録のチェックをしております。乳用種と交雑種のみですが、その申込書のチェックです。2月齢チェック、購入先ごとの証拠書類の突合チェック等です。これら一連の作業は補給金制度の下での作業であり、契約者に補給金が円滑に支払われるための作業です。この作業を始めたのも今年の1月からですので、まだまだ未熟な部分も多い思えます。ここでも周りの方々にご指導を頂きながら、ミスのないように、そして速くこの作業をこなしていかなければならないと思っております。

働きはじめて9カ月が経ちました。まだまだ未熟な部分も多く、事業の一部分をかじったに過ぎない状況です。今は自分に与えられて仕事を着実にこなし、次へのステップにしたいと思えます。これからも日々、勉強し、先輩諸氏のご指導を頂きながら徐々に仕事を覚えていき、一人前にならなければならないと思っております。今後も微力ながらも、宮城県の畜産の発展に尽くしていきたいと思えます。よろしくご指導お願い申し上げます。

<畜試便り>

新しい基幹種雄牛「奥北茂」、「系昭」の概要 及び第20回和牛産肉能力間接検定成績

宮城県畜産試験場

新しい基幹種雄牛「奥北茂」、「系昭」の概要

平成13年度に第19回和牛産肉能力間接検定技肉調査を実施した候補種雄牛4頭のフィールド検定が終了し、「奥北茂」と「系昭」が、宮城県基幹種雄牛として供用が開始されることとなったのでその概要について紹介します。

種雄牛概要及び直接検定成績と間接検定及びフィールド検定成績は、それぞれ表-1と表-2に示しました。

産子の調査では、奥北茂では資質、体上線、体深に優れていましたが、前背幅や後躯の充実に欠けるものがみられ、系昭では、資質、体積に優れていたものの、後躯、特に腿の充実に欠ける傾向がみられました。交配にあたっては、それぞれの優点・欠点を考慮した上で繁殖雌牛を選択することが望ましいと思われまます。

枝肉成績では、奥北茂は間接検定・フィールド検定ともに肉質、特に脂肪交雑で優れており肉質の改良に有効ですが、やや枝肉重量が不足しているため枝肉重量の遺伝的能力の高い雌牛への交配が望ましいと思われまます。系昭は、第2波茂の息牛として初めての基幹種雌牛であり、間接検定の1日平均増体重が本県の間接検定で最も高い成績であったことから増体への改良が期待されています。

近親交配の弊害を防ぐためには、産子の近交係数を10%以下となる交配が望ましいので、避けるべきと考えまます。奥北茂は奥茂、系昭は第2波茂、茂重波、奥茂を父牛に持つ繁殖雌牛への交配は避けるべきと考えまます。

表-1 種雄牛概要及び直接検定成績

名号	生年月日	産地	父	母方祖父	母方曾祖父	1日平均増体重	365日補正体重	TDN要求率	粗飼料摂取率
奥北茂	H8.8.14	米山町	奥茂	系光	第7系桜	1.20 kg/日	430.0 kg	4.47	32%
系昭	H9.1.27	桃生町	第2波茂	奥茂	系光	1.45 kg/日	468.8 kg	3.45	33%

表-2 間接検定及びフィールド検定成績

名号	間接検定					フィールド検定			
	検定頭数	1日平均増体重	枝肉重量	コース芯面積	脂肪交雑	検定頭数	枝肉重量	コース芯面積	脂肪交雑
奥北茂	10	0.88 kg/日	323 kg	44cm ²	3.3	12	386 kg	55cm ²	2.2
系昭	9	0.96 kg/日	347 kg	45cm ²	2.5	12	370 kg	53cm ²	1.6

第20回和牛産肉能力間接検定成績

第20回和牛産肉能力間接検定が終了したので、その概要について報告します。

検定候補種雌牛は「神勝福」、「勝緑」、「系賢晴」、「高正波」の4頭で、検定期間は、神勝福と勝緑が平成14年1月15日から平成15年1月14日、系賢晴と高正波が平成14年3月5日から平成15年3月4日の364日間でした。

検定牛の概要及び直接検定成績と間接検定成績については、それぞれ表-3と表-4に示しました。

1日平均増体重では、神勝福が昨年度の系昭と並び本県の間接検定成績で最も高い0.96 kg/日を示しました。他の3頭も全国平均前後の良好な増体を示しました。枝肉重量はいずれも全国平均を下回っていましたが、勝緑以外の3頭は過去の成績と比較すると良好でした。コース芯面積は神勝福と高正波がそれぞれ52cm²、53cm²と優れており、脂肪交雑は勝緑が3.1と全国平均を上回る良好な成績でした。

この4頭の候補種雌牛は、今回の間接検定成績と現在実施中のフィールド検定成績に基づき総合的に検討され、適当と認められた場合は、宮城県肉用牛改良委員会の承認を経て基幹種雌牛として選抜されることになりまます。

表-3 検定牛の概要及び直接検定成績

名号	生年月日	産地	生産者	父	母方祖父	母方曾祖父	1日平均増体重	365日補正体重	TDN要求率	粗飼料摂取率
神勝福	H 9. 9.11	南郷町	只野 義久	茂 勝	初代14	第31	1.44 kg/日	477.6 kg	3.75	31%
勝緑	H 9.10.18	米山町	佐々木成子	茂 勝	紋次郎	青滝	1.21 kg/日	439.6 kg	4.70	30%
系賢晴	H10. 1.13	古川市	齊藤 幸宏	茂系波	系 光	高 賢	1.27 kg/日	448.1 kg	4.47	30%
高正波	H10.12.10	米山町	高崎 幸男	第2波茂	紋次郎	賢 晴	1.38 kg/日	523.8 kg	4.04	31%

表-4 間接検定成績

名号	検定頭数	1日平均増体重(kg/日)	枝肉重量(kg)	枝肉歩留(%)	コース芯面積(cm ²)	ばらの厚さ(cm)	皮下脂肪厚(cm)	筋間脂肪厚(cm)	脂肪交雑基準(全和)	歩留基準値(%)	枝肉等級
神勝福	10	0.96	352	57.7	52	6.5	2.0	4.3	2.6	74.3	A5-6、A4-4
勝緑	10	0.94	326	57.7	46	6.0	1.8	4.4	3.1	73.6	A5-10
系賢晴	10	0.91	350	57.4	48	6.0	2.8	4.3	2.3	72.8	A5-2、B5-1、A4-5、B4-1、A3-1
高正波	9	0.92	351	59.6	53	6.3	2.3	4.2	2.4	74.1	A5-4、B5-1、A4-3、A3-1
県(7~19回)		0.83	322	57.3	47	5.7	1.8	5.0	2.6	73.8	
H12年度全国		0.93	357	-	47	6.3	2.1	5.8	2.6	73.4	

(社)全国和牛登録協会審査

(酪農肉牛部 伊藤 敦)

精液の価格が改正されました

社団法人 宮城県畜産協会

日頃、皆様にご活用されている県内種雄牛の造成は、肉用牛集団育種推進事業によって検定が行われ、高能力の牛のみが選抜されております。今後は、選抜速度を上げることが急務となっております。

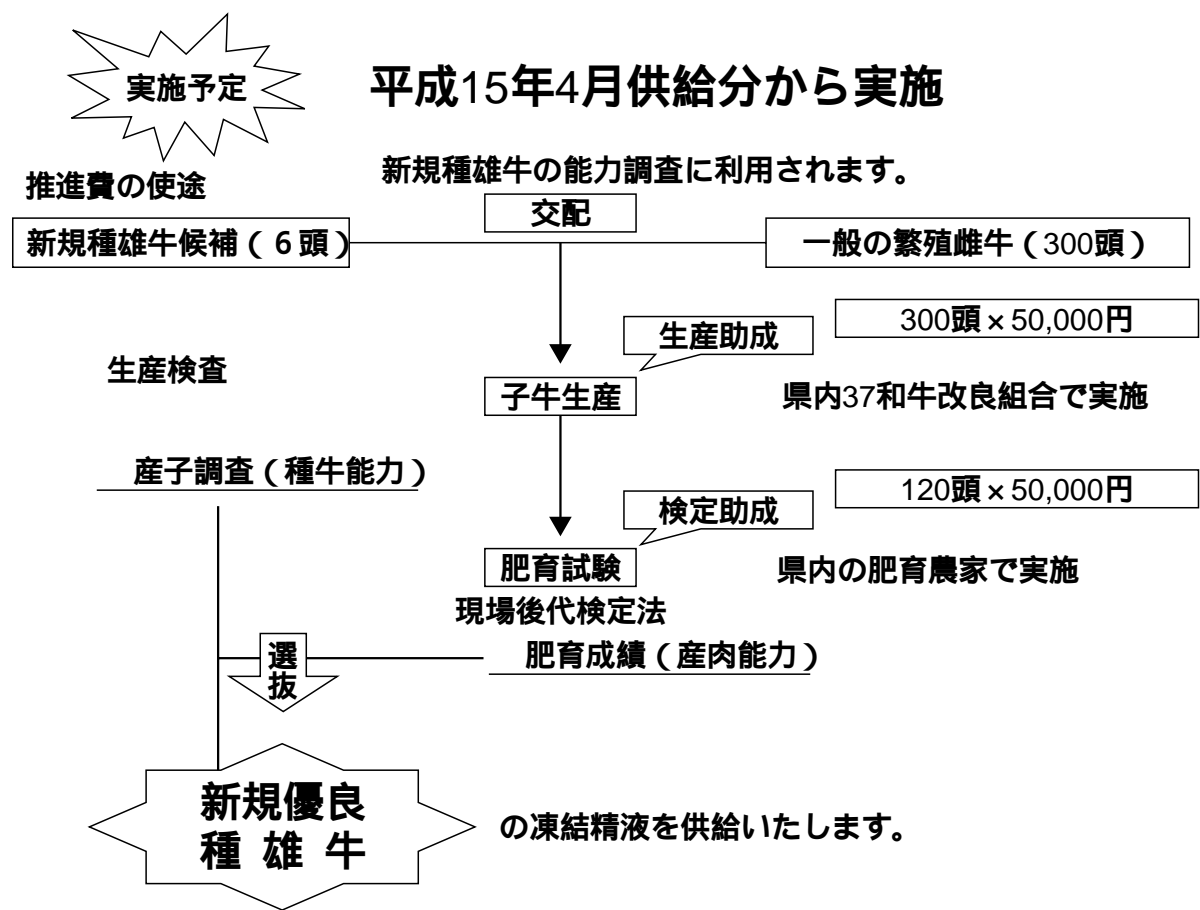
この現状を踏まえ、正確度の高い育種価を取り入れた検定手法により、新規優良種雄牛を造成することになりました。この造成に係る子牛生産対象母牛は300頭、子牛(検定牛)120頭は生産者の協力により能力調査し、選抜いたします。協力農家に対し推進費から生産・検定助成金として交付いたします。その助成金を含めた推進費を平成15年4月より精液の価格改正により対応致すこととなりましたので、ご理解をいただき何卒よろしくお願い申し上げます。

宮城県種雄牛の凍結精液 1本2,000円(内推進費400円)になります。

推進費(400円)は宮城県種雄牛の精液料金に含まれます。

推進費は新規優良種雄牛の造成に活用されます。

凍結精液を利用される皆さんで、本県の優良な種雄牛を造成しましょう!



人の動き
宮城県

平成15年4月1日付け

新	旧	氏名
産業経済部技術副参事(BSE対策担当)	仙台家畜保健衛生所長兼仙台産業振興事務所畜産振興部長	佐々木和夫
産業経済部畜産課副参事兼課長補佐(総括担当)	企業局水道課副参事兼課長補佐(総括担当)	高橋 清
産業経済部畜産課主任主査	石巻産業振興事務所主任主査兼仙台家畜保健衛生所	日野 正浩
産業経済部畜産課主任主査	産業経済部農業振興課主任主査	齋藤 弘之
産業経済部畜産課技術主査	大河原家畜保健衛生所技術主査兼大河原産業振興事務所	佐藤 秀俊
産業経済部畜産課技術主査	農業実践大学校技術主査	鶴田 昇
産業経済部畜産課	土木部土木総務課	後藤 尊之
産業経済部農業振興課農業普及指導専門監	大河原家畜保健衛生所技術副参事兼次長(総括担当)兼大河原産業振興事務所	谷津 芳勝
大河原家畜保健衛生所次長(総括担当)兼大河原産業振興事務所	迫家畜保健衛生所技術次長(班長)兼迫産業振興事務所企画総務部企画員	渡部 正樹
大河原家畜保健衛生所技術主査兼大河原産業振興事務所	古川家畜保健衛生所技術主査兼古川産業振興事務所	穴戸 嘉克
大河原家畜保健衛生所技術主査兼大河原産業振興事務所	仙台家畜保健衛生所技術主査兼仙台産業振興事務所	國井 洋
仙台家畜保健衛生所長兼仙台産業振興事務所家畜振興部長	迫家畜保健衛生所長兼迫産業振興事務所畜産振興部長兼仙台家畜保健衛生所	浅野 安夫
仙台家畜保健衛生所技術副参事(BSE担当)兼仙台産業振興事務所	石巻産業振興事務所畜産振興部技術副参事兼次長(総括担当)兼仙台家畜保健衛生所	飯淵 良廣
仙台家畜保健衛生所技術主幹(班長)兼仙台産業振興事務所	畜産試験場副主任研究員	伊藤 敦
仙台家畜保健衛生所兼仙台産業振興事務所	新規採用	矢島 りさ
古川家畜保健衛生所技術副参事兼次長(総括担当)兼古川産業振興事務所	築館産業振興事務所畜産振興部技術副参事兼次長(総括担当)兼迫家畜保健衛生所	佐藤 実
古川家畜保健衛生所技術次長兼古川産業振興事務所	畜産試験場上席主任研究員兼食肉衛生検査所	阿部 博行
古川家畜保健衛生所技術主査兼古川産業振興事務所	大河原家畜保健衛生所技術主査兼大河原産業振興事務所	大越 啓司
古川家畜保健衛生所兼古川産業振興事務所	畜産試験場	門脇 宏
築館産業振興事務所畜産振興部次長(総括担当)兼迫家畜保健衛生所	畜産試験場上席主任研究員	菊田 正信
迫家畜保健衛生所長兼迫産業振興事務所畜産振興部長	産業経済部畜産課BSE対策専門監	黒須 敏夫
迫家畜保健衛生所技術主幹(班長)兼迫産業振興事務所企画総務部企画員	仙台家畜保健衛生所技術主幹(班長)兼仙台産業振興事務所企画総務部企画員	山田 稻生
石巻産業振興事務所家畜振興部技術副参事兼次長(総括担当)兼仙台家畜保健衛生所	古川家畜保健衛生所技術副参事兼次長(総括担当)兼古川産業振興事務所兼仙台家畜保健衛生所	川村 芳夫
石巻産業振興事務所主任主査兼仙台家畜保健衛生所	古川家畜保健衛生所主任主査兼古川産業振興事務所	橋本 和広
畜産試験場副参事兼次長(総括担当兼班長)	迫地方農事務所地域振興部副参事兼次長(総括担当兼班長)	西堀 修二
畜産試験場副主任研究員	古川地域農業改良普及センター主任主査兼古川産業振興事務所	半沢 康弘
畜産試験場兼食肉衛生検査所	新規採用	児嶋 千尋
畜産試験場	新規採用	庄司理津子
王城寺原補償工事事務所副参事兼次長(総括担当兼班長)	畜産試験場副参事兼次長(総括担当兼班長)	木村 健
大阪事務所長	産業経済部畜産課副参事兼課長補佐(総括担当)	浅野 誠治
宮城大学主査	産業経済部畜産課主査	狩野 智幸
石巻地方農事務所主査	産業経済部畜産課主査	市川 敦
古川地域農業改良普及センター技術主査兼古川産業振興事務所	産業経済部畜産課技術主査	菅原 賢一

全農宮城県本部

平成15年4月1日付け

新	旧	氏名
管理部付 石川(株)出向	家畜市場課長兼みやぎ総合家畜市場長	佐々木 仁
畜産課兼仙台食肉事務所長	畜産課	那須 正晃
畜産課兼肉牛PC大郷所長	仙台食肉事務所長	保科善一郎
家畜市場課長兼みやぎ総合家畜市場長	みやぎ総合家畜市場副場長	菅原 勝則
米穀課	家畜市場課	千葉 悦子
みやぎ総合家畜市場副場長	家畜市場課	金田 俊一
畜産課	家畜市場課	半田 勝則
家畜市場課	肥料農業課	本間 恵子
園芸課	家畜市場課	熊谷 昭市
家畜市場課	新規採用	川名 政路

宮城県農業共済組合連合会

退職(平成15年3月31日付け)

"

"

参事

家畜部診療指導課主幹

県北家畜診療センター技術主査

赤間 清人

菊地 イナ子

佐竹 寿弘

平成15年2月1日付け

新	旧	氏名
県南家畜診療センター所長	県北家畜診療センター所長	千葉 正寛
中央家畜診療センター所長	県南家畜診療センター所長	早坂 雅孝
県北家畜診療センター所長	中央家畜診療センター所長	大場 英企
家畜診療研修所次長	審査担当・家畜部勤務 県南家畜診療センター次長	吉田 重夫

平成15年4月1日付け

新	旧	氏名
参事	家畜部長	谷津 實
総務部長兼家畜部長	総務部長	大槻 栄一
家畜部診療指導課長補佐	県北家畜診療センター課長補佐	斎藤 節子
県北家畜診療センター次長兼診療課長	中央家畜診療センター課長	高橋 一郎
中央家畜診療センター次長兼診療課長	県北家畜診療センター課長	沼津 敬治
中央家畜診療センター損防課長	県南家畜診療センター課長補佐	熊谷 克
家畜診療研修所庶務課長補佐	中央家畜診療センター課長補佐	鈴木 悦子
中央家畜診療センター技術主査	県北家畜診療センター技師	松田 敬一
県北家畜診療センター技術主査	中央家畜診療センター技術主査	西條 慎一
県北家畜診療センター技術主査	中央家畜診療センター技術主査	菅原 真哉

(社)宮城県農業公社

退職(平成15年3月31日付け)

"

岩出山牧場長

白石牧場主幹

平間 勲

阿部 勝利

平成15年4月1日付け

新	旧	氏名
畜産振興班主任主査(牧場管理担当)	設計管理班主任主査	平間 利明
畜産振興班主任主査	設計管理班技術主査	天野 順
設計管理班上席主任主査	畜産振興班上席主任主査	岡本 俊彦
事業所上席主任主査	岩出山牧場主任主査	高橋 久男
白石牧場主任主査	岩出山牧場技術主査	高橋 和浩
白石牧場技師	新規採用	高橋 正俊
岩出山牧場長	事業局畜産振興班副参事(牧場管理担当)	佐々木英一
岩出山牧場技術主査	白石牧場技術主査	遠藤 康彦

(社)宮城県畜産協会

退職(平成15年3月31日付け)

"

仙北事業所指導窓口相談員

中央事業所指導窓口相談員

菊地 孝司

今野 嘉壽

平成15年4月1日付け

新	旧	氏名
参事兼総務課長	総務課長	高橋 正義
生乳検査課技術主幹	生乳検査課技術主査	半田 好昭
仙北事業所指導窓口相談員	亘理農業改良普及センター所長	斎藤 喜平
中央事業所指導窓口相談員	元仙南事業所長	堀内 政昭
経営支援課	大河原農業改良普及センター(囑託)	佐々木英夫